

「ひきざんって なあに？」

## 1 提案の主張点

### (1) 学びの積み重ねを重視した単元構成

#### A 学び方の基礎を身につけるために

1年生の今の時期は、算数科における内容的なものを学習することに加えて、話す・聞く・書く等の学習全般にわたっての基礎となるものを身につけている段階であるものといえる。そのため、この時期に学び方を獲得することは内容理解を進めていく上で極めて重要なことである。

そこで、本単元「ひきざん(1)」を含め、「ふえたりへったり」「たしざん(1)」と進む間、次のような学習過程を2人の教師(TT)で繰り返し行った。

問題把握(イ-ジ)豊かにとらえるための動作化・話し合い活動)

言葉とつないだブロック操作活動

ブロック操作を図に表す活動

立式・答え

このように同じ過程を繰り返していくなかで、子どもたちは、学び方を自分のものとしていった。

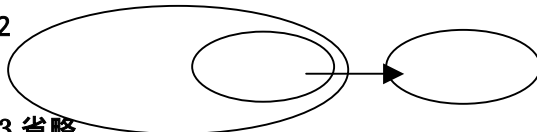
#### I 抽象化へのステップを図る算数的活動

「ふえたりへったり」の電車ごっこからブロック操作を 図に表すという活動を取り入れた。そして、ブロック操作(手の動き)と矢印を結びつけることが、加法・減法のイメージ化の助けとなるととらえ、子どもたちには、 や矢印を使えばブロック操作の様子を残すことができるということが分かり、自分の考えを表現しようとする意欲化へとつながると考えた。

パターン1



パターン2



パターン3 省略

### (2) ペア活動で交流の基礎を

問題場面についてお話をしながらブロック操作をする活動では、ペアで交流する場を設定」し

た。ここでのペア活動では、

自分の考えをはっきりさせるために友達に話す。

ブロック操作を通して問題把握を深める。自分の考えを自信をもって話せるようにして、全体での交流につなげる。

ことをねらいとした。

ほとんどの児童が、ブロック操作を振り返って自分なりの表現方法で表すことができるようになってきた。

## 2 提案に対する意見

### 質問1(単元構成の工夫を具体的に)

・指導書の流れの中に子の実態よりお話作りを取り入れた。

質問2(ふえたりへったりとの単元のつながりは?)

電車ごっこをしながら問題把握

ブロックで操作

図で

もう一度繰り返し(生活の中に置き換えて)の学習の流れの中で子と対話しながら、子どもが考えて抽象化へと導いていった。

質問3(本時の授業のあと3のところでイメージ化 立式 するのに困ったのだが・・・)

・パターン2が多い。

質問3(ペア学習のあり方と個人差への対応?)

・ペア学習は、交流の基礎である。

・積み重ねのパターンは、教師が教えるべきだ。

・子のいろいろな考えを認めるなかで、意欲化へとつながった。

・話型を指導し、個々のよさを生かしながらペア学習に取り組んだ。

## 3 ご指導

(高松市立植田小学校 教頭 森弘 幸子先生)

・2人の先生の自信と意欲、子ども一人一人を大切にした取り組みで、子が生き生きと活動していた。目的意識を持たせるのに動作化は大切だ。

・今年度から、充実した授業をしなければならない。学校としては、基礎基本を重視して子へ

確実に身につけさせることである。

- ・低学年は、体験を通して感性豊かな児童へ。

パターン3

